

EXPO2025 TALK SESSION

2025.04.12 14:00

万博のツケは 誰が払う!?

政治・建築・メディア・経済・都市の視点から
5人の論客が「失敗」を続ける大阪の「本質」に迫る



ISAO KINOSHITA
木下 功



TAKASHI MORIYAMA
森山 高至



KENSUKE NISIOKA
西岡 研介



KENSUKE YOSHIHIRO
吉弘 憲介



HAJIMU MATSUMOTO
松本 創

2025年4月12日(土)
14:00 ~ 17:00(13:30 開場)
大阪私学会館 4F 講堂

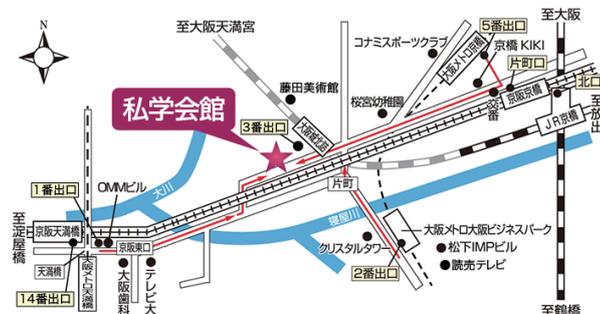
一般 1500 円

チラシ持参・画面表示 1200 円

高校・大学生 500 円

ネット配信 1000 円

ネット視聴申込



JR 東西線 大阪城北詰駅 3 番出口より西 (右) へ徒歩 2 分
JR 環状線、京阪電車京橋駅徒歩 12 分
大阪メトロ谷町線天満橋駅、京阪電車天満橋駅徒歩 12 分

主催 **Future OSAKA** 大阪の未来をつくる市民ネットワーク
https://note.com/future_osaka contact@futureosaka.com phone : 080.4019.2859[いしだ]

協力: 大阪モニ太、大阪カジノに反対する市民の会、カジノはいらん!住吉の会、カジノいらん!阿倍野の会

賛同: NPO法人労働と人権サポートセンター大阪、どないする大阪の未来ネット、夢洲カジノを止める大阪府民の会

維新の首長は積極的に取材に応じ、フルオープンを誇っている。……透明性をアピールしている。しかし、……真に重要な情報やプロセスは結局、覆い隠されているのではないか。万博をめぐる噴出する数々の問題は、維新政治・行政の恣意性、不透明性、そして独善性を物語っている……

木下功★ISAO KINOSITA

(1962 年生まれ。ジャーナリスト、元大阪日日新聞記者)

電通と吉本興業を万博から事実上撤退させたのは、「コンプライアンスの徹底」と「レピュテーションリスクの回避」だったことは共通している。……「哲学も、未来へのビジョンもない。限られた人たちが、地域の利益のための博覧会に国民の共感など得られるはずもない……」某氏の指摘はもっともだ。

西岡研介★KENSUKE NISIOKA

(1967 年生まれ。ノンフィクションライター)

哲学も、 未来への ビジョンもない

「祝賀資本主義」の推進装置であるメガイベントはデメリットの方が大きい……そんな時代潮流に関係なく……不都合に目をつむって万博を強行する。無関心のまま、誰も止めることができない。そして、維新首長の下で府市が一体化し、政治と行政の間の線引きも失われた今の状況では、おそらく誰の責任も問われない。

松本創★HAJIMU MATSUMOTO

(1970 年生まれ。ノンフィクションライター)

昨年(2024年)8月に上梓された「大阪・関西万博『失敗』の本質」は、建設の遅れやメタンガス爆発など迷走する万博を、政治・建築・経済など多岐にわたる視点から5人のスペシャリストが検証し、問題点を浮きぼりにした良書。

公刊後もさまざまな問題が噴出し続けているが、いよいよ開幕を迎えたいま、5人の執筆者が一堂に集まり万博の課題の「現在地」を改めて洗い出し、万博後の跡地開発やその後に控えるカジノの問題点を指摘し、警鐘を鳴らします。

……なぜ、万博はこれほど迷走するのか……開幕前に、多角的な視点から検証・指摘しておくのが本書の目的である……どんな形であれ、とりあえず終わってしまえば、なんとなく「やってよかった」という空気ができ……いくらでも恣意的に語られてしまう。そうなる前に、「失敗」と見る立場から問題を整理し、指摘しておくべきだ……(「はじめに」より)

第1章 維新「政官一体」体制が覆い隠すリスク 一万博と政治

第2章 都市の孤島「夢洲」という悪夢の選択 一万博と建築

第3章 「電通・吉本」依存が招いた混乱と迷走 一万博とメディア

第4章 検証「経済効果3兆円」の実態と問題点 一万博と経済

第5章 大阪の「成功体験」と「失敗の記憶」一万博と都市

万博も カジノを呼ぶ 仕掛けの一部

人類的な大義に立てば、万博も、人類の健康と幸福と文化の連帯という命題に尽きる……大きな視点で未来への天命を模索するのであったならば……大阪にカジノを呼ぶために、市民の苦情の少ない離島を活用する仕掛けの一部として万博を利用しようなどという安易な考えでメガイベントを誘致しなかったはず……

森山高至★TAKASHI MORIYAMA

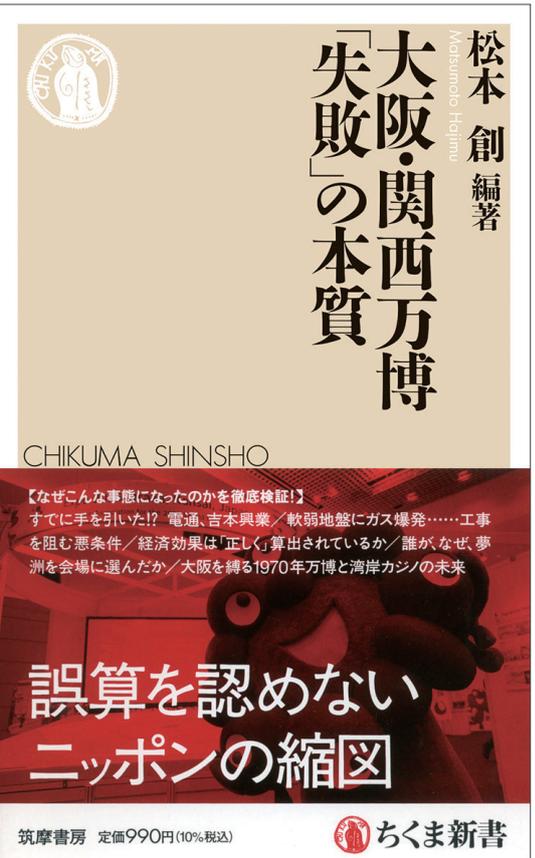
(1965 年生まれ。一級建築士、建築エコノミスト)

税金を使った巨大イベントの課題は、短期的なコスパの重視を超えて、中長期的に残り、我々の社会に正の外部性を発揮してくれるような「遺産」をどのように残すのかということ……維新の会という都市住民のコスパを重視する志向を受けて成長した政党が、(そうした)価値を共有させる議論を喚起できるのか……

吉弘憲介★KENSUKE YOSHIHIRO

(1980 年生まれ。財政・経済政策研究者、桃山学院大学教授)

不都合隠し 無関心 無責任



筑摩書房 定価990円(10%税込)

ちくま新書